

鉄軌道輸送の安全に関わる情報（平成28年度）の訂正について

平成30年5月

「鉄軌道輸送の安全に関わる情報（平成28年度）」につきまして、運転事故の届出等により一部の数値に変更がございましたので、以下のとおり訂正いたします。
（訂正箇所は、赤字部分です。）

●概要版

1. 運転事故

【P1～2】

○平成28年度に発生した運転事故は、件数が715件で対前年度12件減、死亡者数が307人で同21人増でした。（表1参照）

表1：運転事故の件数及び死傷者数（平成28年度）

	件数（対前年度）	死亡者数 ^{※6} （対前年度）	負傷者数 ^{※6} （対前年度）
列車事故 ^{※1}	19件（+9件）	1人（+1人）	8人（△11人）
踏切事故 ^{※2}	223件（△13件）	96人（△5人）	93人（+31人）
うち踏切障害に伴う列車事故 ^{※3}	1件（+1件）	1人（+1人）	3人（+3人）
道路障害事故 ^{※4}	43件（△20件）	0人（±0人）	17人（△6人）
人身障害事故 ^{※5}	429件（+13件）	211人（+26人）	222人（△13人）
うち線路内立入り等による列車との接触	230件（+23件）	182人（+28人）	49人（△7人）
うちホームでの列車との接触	187件（△11件）	28人（±0人）	160人（△10人）
物損事故	2件（±0件）		
合計	715件（△12件）	307人（+21人）	337人（△2人）

図1：運転事故の件数及び死傷者数の推移

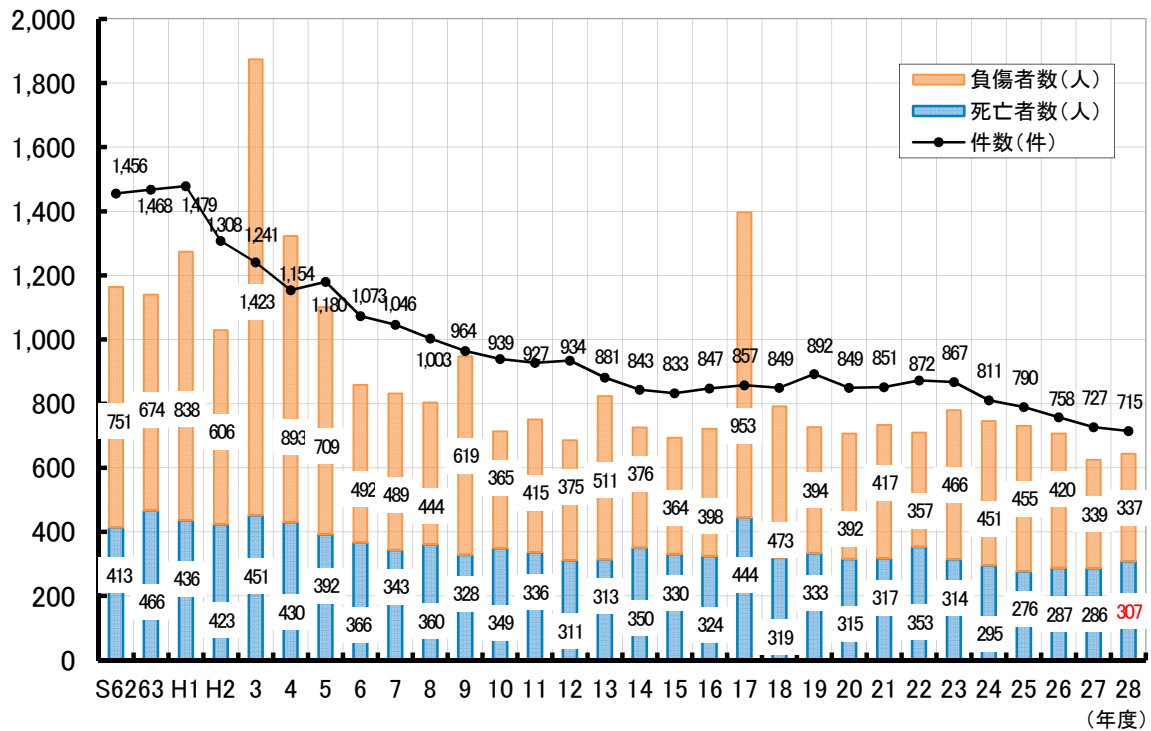
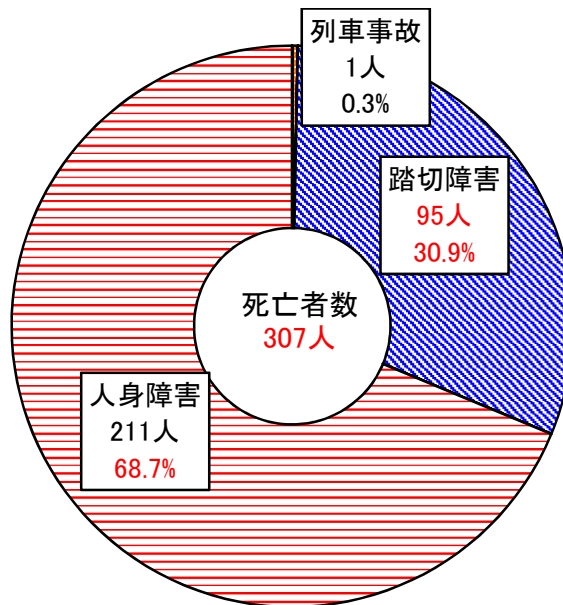


図2：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成28年度)

② 死亡者数



2. 踏切事故

【P 3～4】

○平成28年度に発生した踏切事故は、件数が223件で対前年度13件減、死亡者数が96で対前年度5人減でした。(表1参照)

○自動車等の直前横断による踏切事故は、件数が125件(対前年度8件減)で、踏切事故全体の56.1%となっています。

図3：踏切事故の件数及び死傷者数の推移

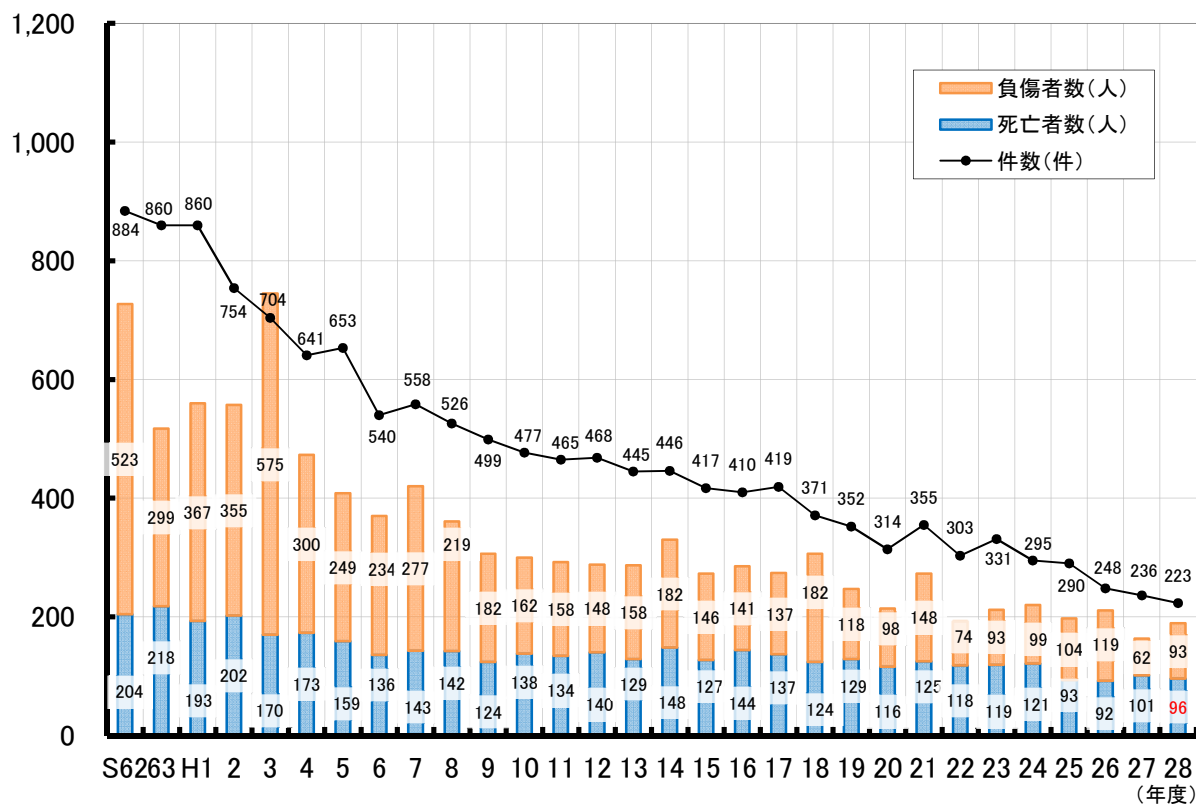
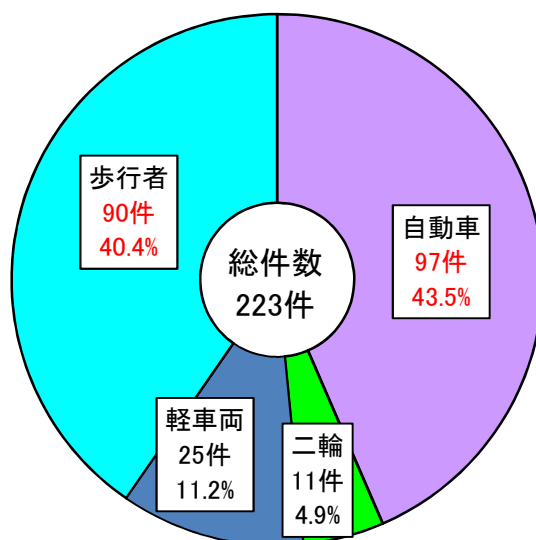
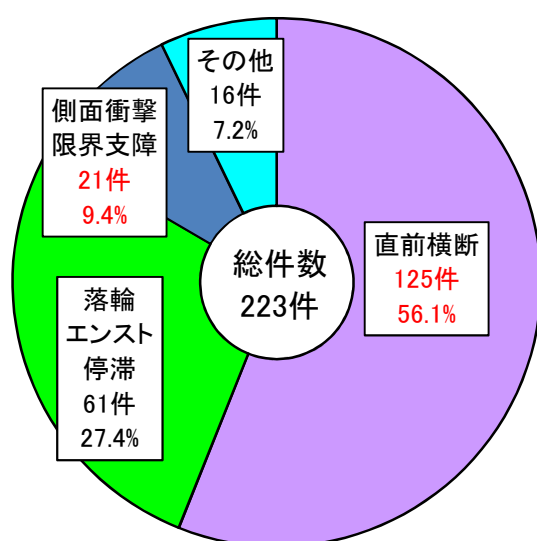


図4 踏切事故の発生状況(平成28年度)

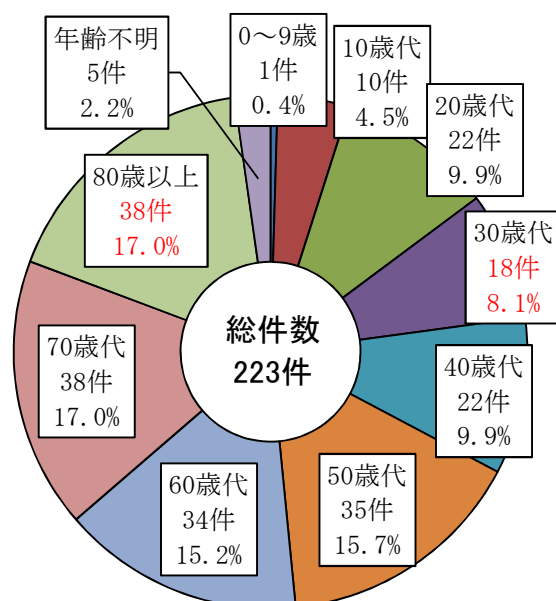
② 衝撃物別



③ 原因別



④ 関係者年齢別



4. 輸送障害

【P 5】

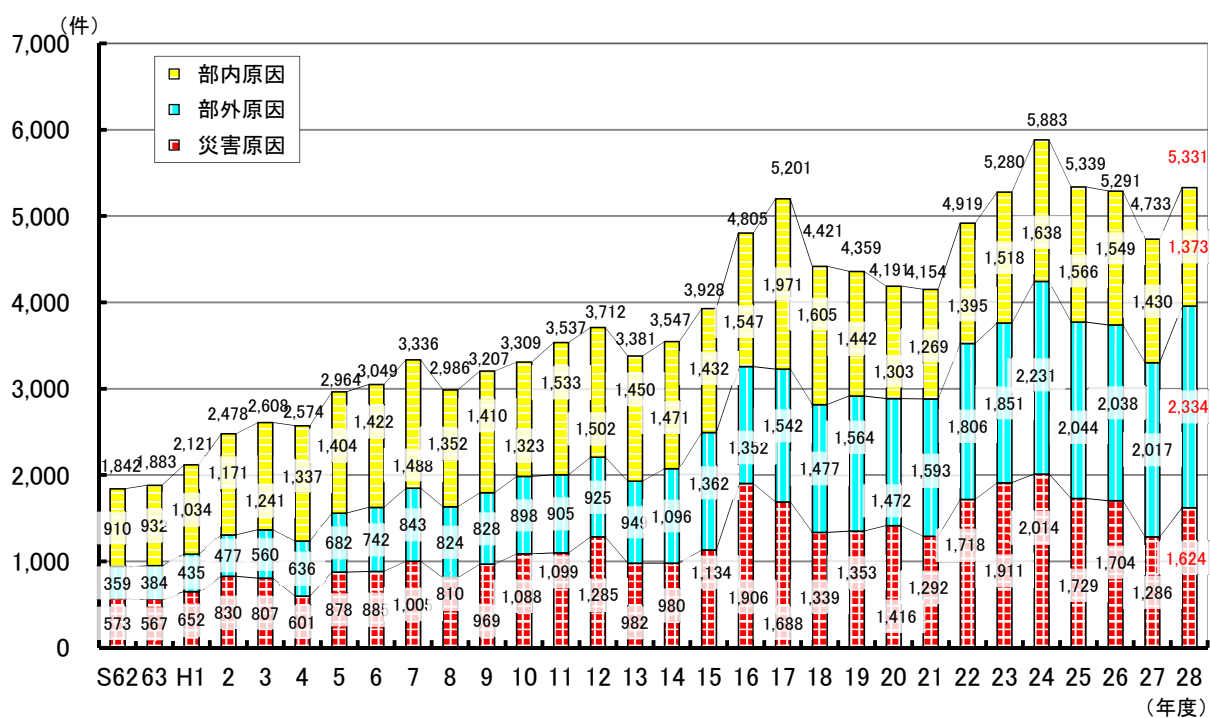
○平成28年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は5,331件で対前年度598件増でした。(図8参照)

○鉄道係員、車両又は鉄道施設等に起因する輸送障害(部内原因)は、1,373件(25.8%)で対前年度57件減でした。

○線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,334件(43.8%)で対前年度307件増でした。

○風水害、雪害、地震等の自然災害による輸送障害(災害原因)は、1,624件(30.5%)で対前年度338件増でした。

図8：輸送障害件数の推移



● 2 運転事故に関する事項

2. 1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

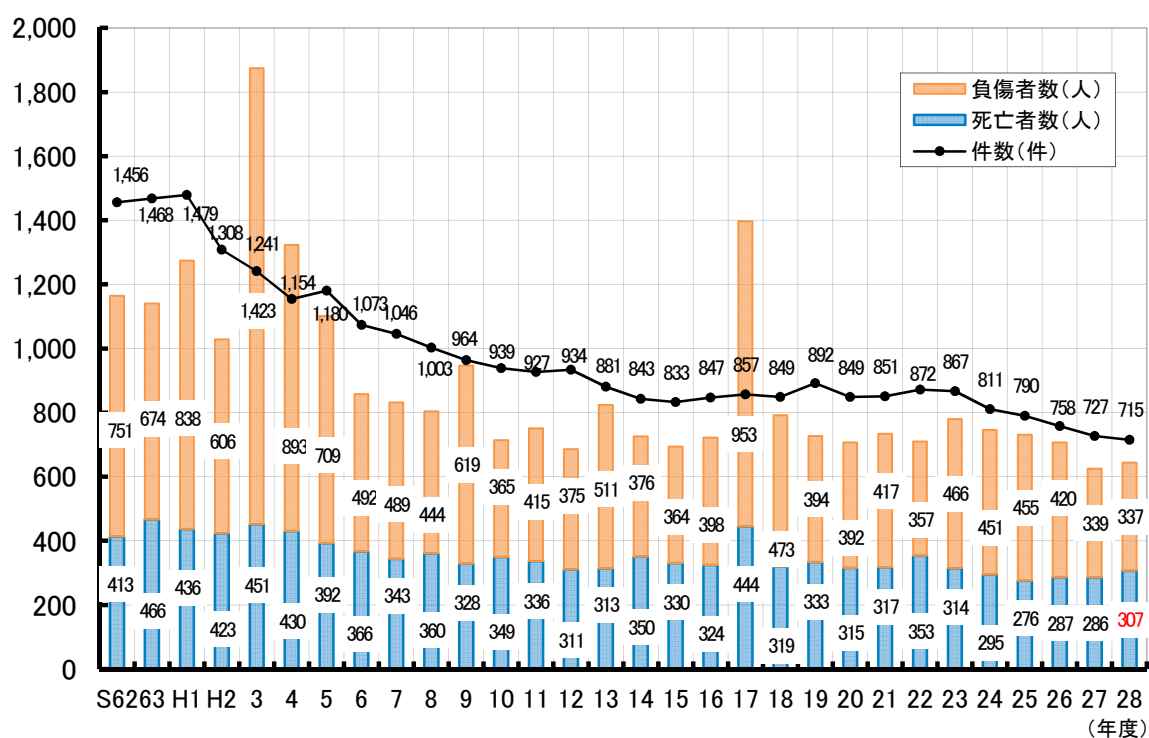
【P 1 2】

(1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

○平成28年度に発生した運転事故による死亡者数は、**307**人で対前年度**21**人増で、近年は300人前後でほぼ横ばいとなっています。

○また、運転事故による死傷者数は、**644**人で対前年度**19**人増でした。運転事故による死傷者数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にありますが、JR西日本福知山線列車脱線事故が発生した平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故が発生した年度では死傷者数が多くなっています。

図5：運転事故の件数及び死傷者数の推移

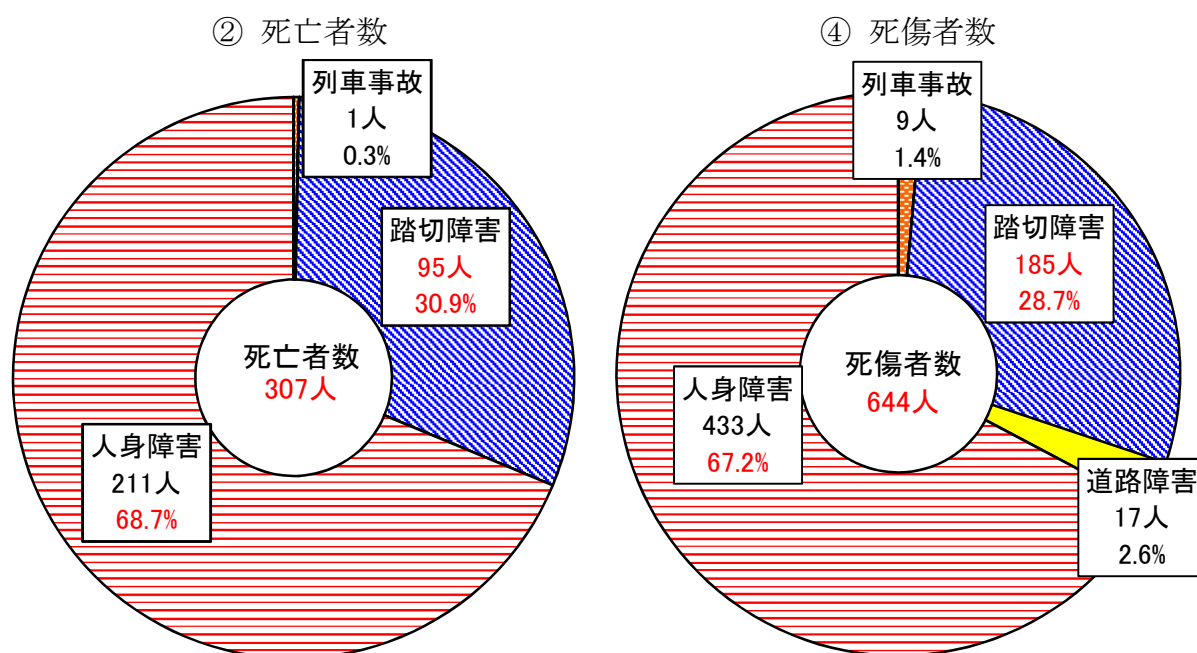


【P 1 3 ～ 1 4】

(3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

○平成28年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり307人で、その内訳は、人身障害事故によるものが211人(68.7%)で対前年度26人増、踏切障害事故によるものが95人(30.9%)で対前年度6人減となっています。

図7：運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成28年度)



2. 3 踏切事故の発生状況

【P 1 8 ～ 2 0】

(1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

○平成28年度に発生した踏切事故 は、2. 1(3)に記述したとおり、運転事故全体の31. 2%に当たる223件で対前年度13件減、踏切事故による死亡者数は96人で対前年度5人減、死傷者数は189人で対前年度26人増でした。

図10：踏切事故の件数及び死傷者数の推移

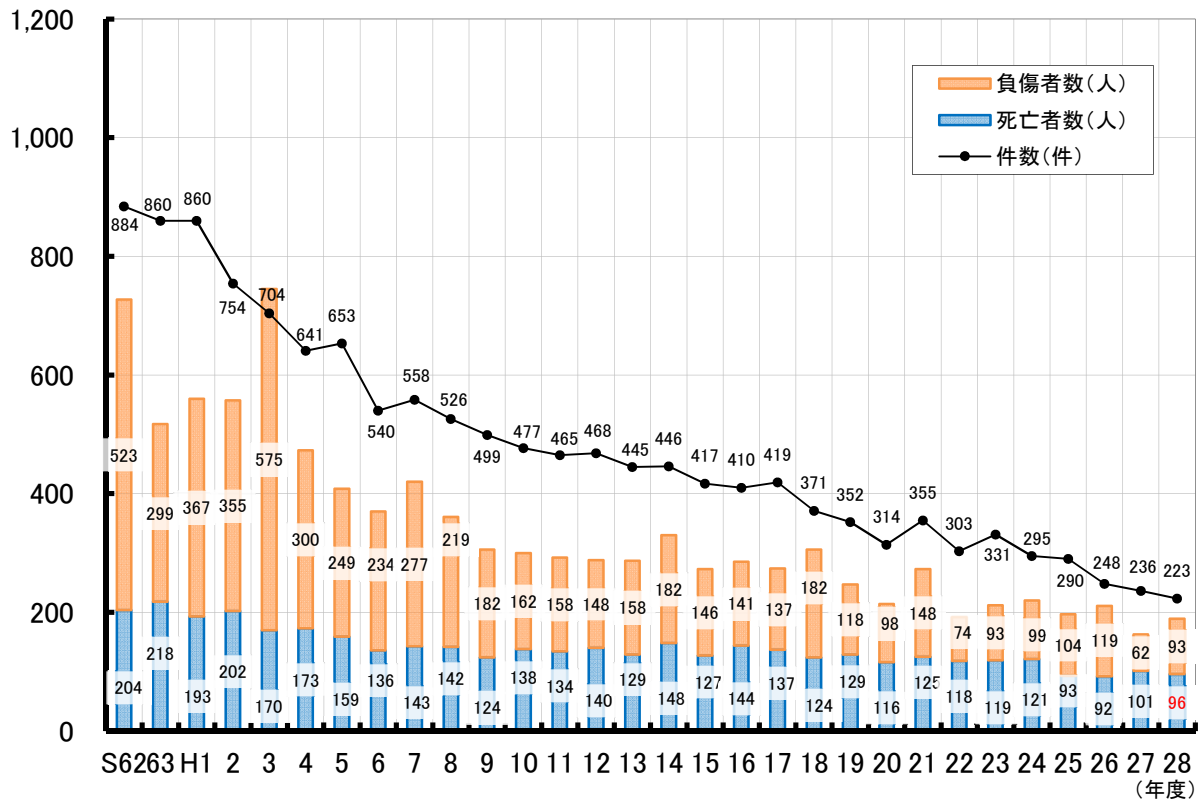
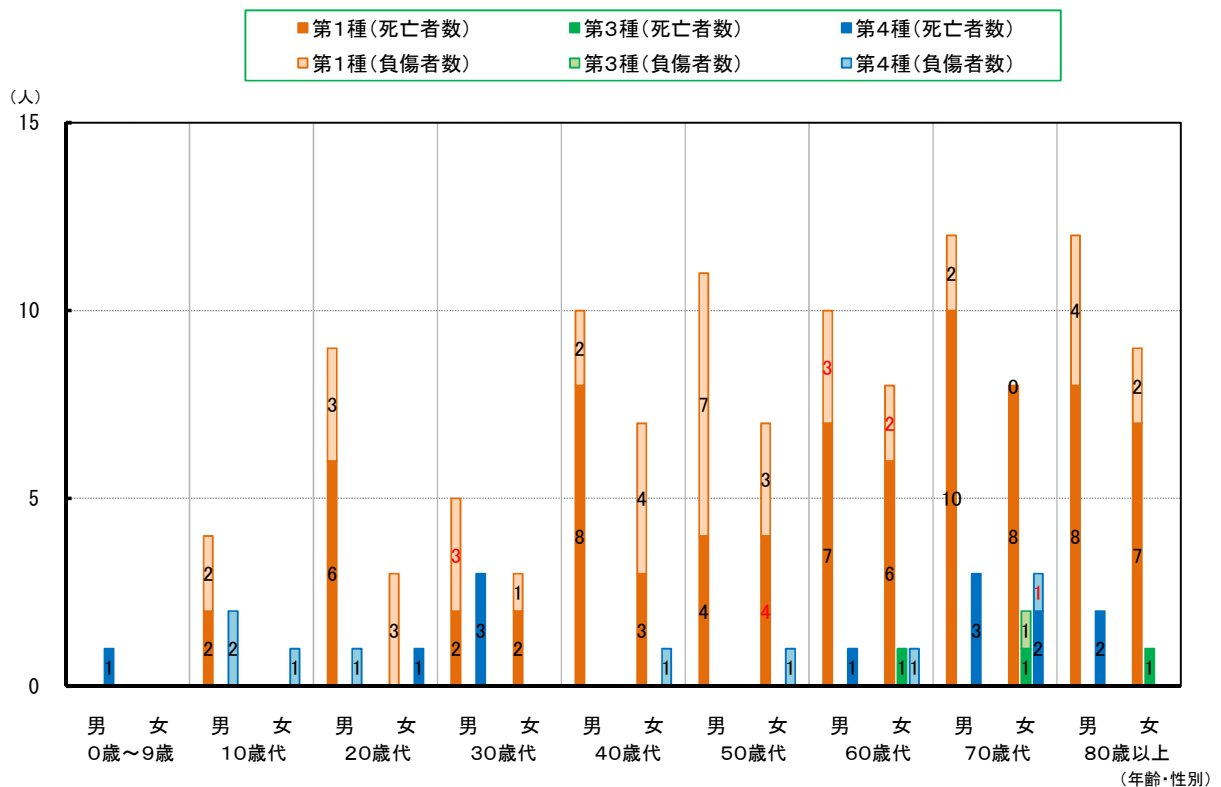


図11：踏切事故による死傷者数の年齢別人数(平成28年度)



※年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

※高齢者（65歳以上）については、第1種踏切道における死亡者数は41人、負傷者数は9人、第3種踏切道における死亡者数は3人、負傷者数は1人、第4種踏切道における死亡者数は7人、負傷者数は2人です。

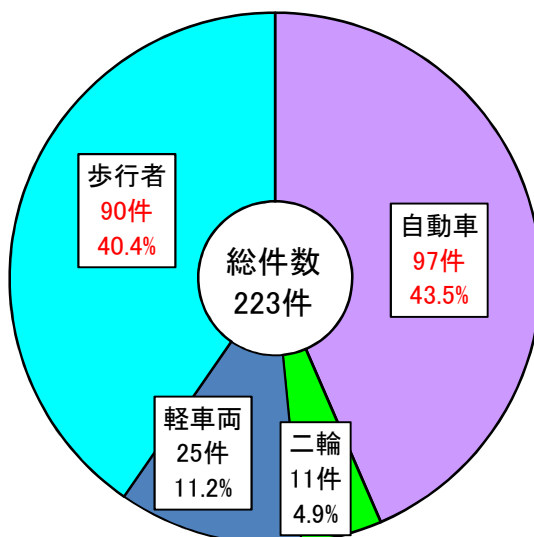
(2) 踏切種別別・衝撃物別及び原因別の踏切事故件数等

○衝撃物別の内訳は、自動車97件(43.5%)、二輪11件(4.9%)、自転車などの軽車両25件(11.2%)、歩行者90件(40.4%)となっています。

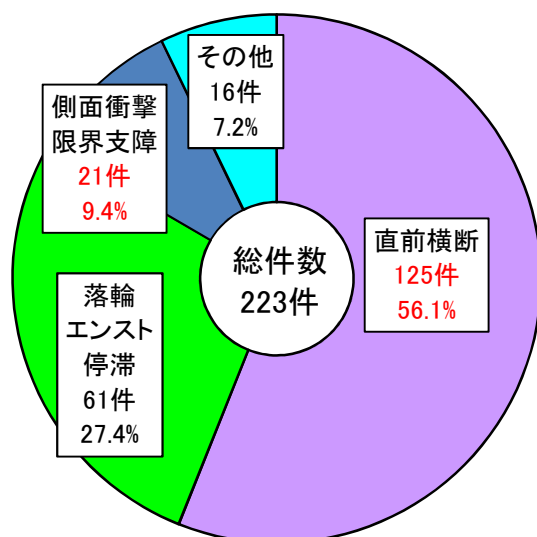
○原因別の内訳は、直前横断125件(56.1%)、落輪・エンスト・停滞61件(27.4%)、側面衝撃・限界支障21件(9.4%)、その他16件(7.2%)となっています。

図12：踏切種別別、衝撃物別、原因別及び関係者年齢別の踏切事故件数(平成28年度)

② 衝撃物別



③ 原因別



④ 関係者年齢別

